

防災ボランティア・グループ

年次総会開かれる

去る一月十九日防災ボランティア・グループの総会が、釜利谷西小学校の国際ルームで開かれました。

新代表・副代表の選出、新たな活動方針の提案などがありました。



防災ボランティア・グループ 平成26年度活動方針

平成26年の活動方針は下記4項目です。

- ①自治会の防災指針を受けて活動する。
- ②防災ボランティア・グループ規約第四条に記載されている内容を具体的に推進する。
- ③災害対応について自助7・共助2・公助1と言われている。安否確認の目的があったので、これまでも課題として挙げていたが中々実行に移せなかつた災害時に支援が必要とされる方への活動を具体的に展開して行く。
- ④従来からの啓発活動・訓練に加えて、平常時に行う具体的活動を小グループ単位で検討・実行する。

例えば高齢の方を対象として、消火器・火災報知器・家具転倒防止など自助に必須の防災準備を支援するプロジェクトを副代表の和泉さんを中心とするグループに、災害発生時の情報連絡方法（トランシーバー・伝言ダイヤル）等に付いては野呂さんを中心とする小グループで、救命救急や避難誘導（車椅子・担架等）に関しては十川さんを中心とする小グループで実施することを提案したい。

代表 徳岡 正彦

関ヶ谷自治会会長 挨拶

本日の総会にあたり、挨拶の指名をいただきましたが、私からは、今年の年頭の釜利谷区賀詞交歓会に於ける、林区長のご挨拶を紹介、引用させていただきたいと思っております。

金沢区の抱える大きな課題、最重要施策として、下記の5点を明示されておりましたが、それは、そっくり其の弊、私達のこの関ヶ谷自治会にあてはまるものでした。

- 高齢化対策
- 防災減災対策
- 釜利谷の歴史と文化の継承
- 大学と地域の連携強化
- 行政と地域（自治会町内会）の連携強化

の5点でした。

特に、防災減災対策の重要性については、力を込めたお話をされておりました。

関ヶ谷自治会としても、今年度の初めより、自治会防災体制の構築を、重要施策の第一の項目として取組んで来ましたが、時間を要しましたが、なんとか「関ヶ谷自治会防災指針」を作り上げることが出来、自治会員の皆様にも周知確認していただくことが出来ました。

この「自治会防災指針」を柱にして、これから順次、自治会防災体制の具体的な細目について検討を進めて行くこととなります。

自治会として、防災ボランティアグループの皆様のお力を具体的に仰いで行ける、基本的な体制が出来て来た処なのだと考えております。

自治会と防災ボランティアグループとの連携、協力体制の具体的な取組みを進めて行ける段階に来たのだと判断しています。

皆様のお力を、ご協力を期待します。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

以上、私の挨拶に代えさせていただきます。有難うございました。

（関ヶ谷自治会長 田崎幸雄）

総会決定事項

規約の改定

従来、「役員任期は原則3年とし、再任を妨げない」

改定後「役員任期は原則2年とし、再任を妨げない」

役員改選

代表	徳岡 正彦
副代表	和泉 達
グループリーダー	
第一グループ	十川 幸三
第二グループ	野呂 良彦
第三グループ	服部 壽夫
民生児童委員	
第一地区	戸次 明子
第二地区	大橋 ひろみ
第三地区	大島 房子
顧問	
自治会長	田崎 幸雄
副会長	萩尾 泰章

「自助」サポート・プロジェクトチームを立ち上げる

大地震が起きたとき、少しでも被害を少なくするためには日頃からの減災活動が大切です。それが自助・共助・公助です。一般的にはその比は自助7・共助2・公助1と言われています。「自助」は本来、「自分の身は自分で守る」ことですが、裏面の「地震の基礎知識」に述べられている事をすこしでも行動できるよう、自治会・防災WGとして少しでも「自助」をサポート出来る取り組みをしたいと立ち上げました。

副代表：和泉 達

最近のニュースより 房総半島沖で「スロー地震」！ 最大で6cm動いた



一月十日国土地理院が、関東東部の房総半島沖で、「スロー地震」を観測したと発表しました。あまり聞きなれない言葉ですが、スロー地震とは、「スロースリップ」とも呼ばれており、プレートがゆっくり滑る現象のことをいいます。

今回のスロースリップではプレートが最大で6cm南東方向に動いたことが一月二十日ごろ観測されたとのことでした。

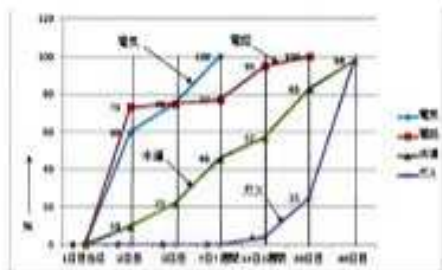
房総半島が乗る北米プレートの下にはフィリピン海プレートと言う別の岩盤が沈み込んでいて両プレートがぶつかりあっており、通常はこの地域の海底は北西方向に動いています。（イラスト）

今、一番警戒すべき場所は、小笠原諸島から関東東部沖の間だそうです。このエリアでは過去数百年単位で巨大地震が発生しておらず、最近では噴火が発生（西之島新島）するなど地震変動も活発化しています。

東日本大震災の時も前兆現象として、今回のようなプレートの地滑りが発生しているのです。「今後も関東東部沖の地震変動には十分な監視が必要」と気象庁もコメントしています。

地震基礎知識

『防災だより』前号では南関東直下型（元禄型）地震あるいは南海トラフ巨大地震の発生の可能性が非常に高いことを書きました。常に災害を意識した心構え「自助」の気持ちをもつことが大切です。そこで今回は大地震発生に備えて何が一番重要で、何をしなければならないかを考えて見たいと思います。（防災ボランティア・グループ前代表：小西 義一）



横浜市は「自助」・「減災」のありのゆるべき事、いざという時の行動について毎年パンフレットを配布して、関心を払うよう指導しています。例えば代表例が昨年配布された「我が家の地震対策平成24年」です。

皆様のお宅にも配布されています。それらを熟読玩味して皆さんのご家庭で「減災」の心の備えとして身に付けていることを念じて止みません。

これらのパンフレットの最初に出てくるのは「防災グッズ」の常備です。私は常備品の問題を広い（マクロ）の範囲・時間の視点で考えなければならぬと常々思っています。その前提となるのは運よく家の倒壊や火災の災害から逃れたらとして（この地域は街中と比べるとその被害は低い）大ききと言えは

ポイント

**生命維持に
必須の物品
は何かを考える？**

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 第1順位 | 家具転倒防止
飲料水の確保
トイレ袋の常備 |
| 第2順位 | ガスコンロ
トイレペーパー
ティッシュペーパー |
| 第3順位 | 懐中電灯
ラジオ
食品の原料 |



大地震発生（中規模でも同じ）と同時にライフラインは全面ストップします。そしてどの位の日数で復旧するかが問題です。阪神淡路大震災の時のデータ（上同参照）によると、電気、通信関係は速く復旧しますが、水道は1週間後で約50%、ガスは7日後まで復旧は0%で、1カ月後で約25%しか復旧していません。全面復旧には2カ月以上要しています。

これは2次災害の危険を避けるためには系統別にラインごとにチェックして安全を確認しなければならぬことです。

では横浜で関東大震災クラスの地震が起きた場合どうか、神戸の場合、地表面の海岸線に沿った活断層付近の海岸側、幅約500m、1kmの範囲に被災は集中しています。これが横浜の場合には隣接市を一部含めると南北約30km、東西約20kmで面で広がっています。しかも地盤は様々であり、液状化の可能性がある地域が多数あります。しかもライフラインが網の目のような構造を想像すると神戸とは大違いに被害を把握するのは容易ではないと考えられます。そう考えると我々の災害に対する対応も、よくよく考えないといけないと感じます。

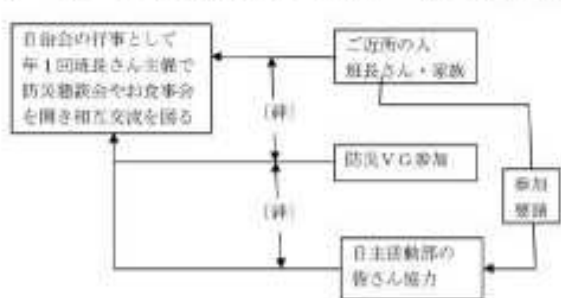
以上長々と述べましたが、最低限絶対に備えておくべきことは何かを言いたい為です。私が考えた災害に備えるものは何かをハードとソフトに分けてハードでは3つの大きな分類とその中の3つの要素です（ポイント参照）。

第1順位の物は生命維持には欠かせない物です。飲料水は一人1箱（2L x 6本入り）を常備する。食べ物も2、3日食べなくても大丈夫。災害で食料が無く飢餓で死者はいないそうですが水はそうは行きません。運悪く更に大地震が発生した場合は高齢者は熱中症に成りやすく、水分不足で血が滞ったら直ちにあの世行きと言われてます。昨夏の猛暑の熱中症で無くなった方が多数いらっしゃいました。

トイレ袋・液状化現象など地盤の変動で水道管や下水道管が破裂したら、水洗トイレは使えません。しかし生命維持には不可欠です。短期間では食料よりも順位は上位です。

ガスコンロ・ガス管の復旧は、相当の日数が掛かることを覚悟しなければなりません。したがって卓上用のガスコンロと予備のガスボンベを用意することをお勧めします。平時でも秋冬には家族揃って家庭で鍋物の料理に使用すれば便利です。

懐中電灯、大地震が夜間に発生した場合や昼間でも夜に成れば真っ暗です。電気の無い生活を体験した方は現代では皆無ではないでしょうか。災害時の地位格差が、不安を増長させるか想像できません。従来型の懐中電灯なら百円ショップで売られていますので各部屋とキッチン・トイレに一個ずつ常備して置くのが有効だと思います。4LDKのご家庭なら八個備えても八百円で済みます。



食品・何処のご家庭でも冷蔵庫があり何か保管しています。その他、米類の米・小麦粉、根菜類、乾麺、カップラーメン、どん兵衛・菓子パン・それに缶詰等があれば一週間は何とか成ります。その内緊急物資も配布されるでしょう。

次はソフト面をどう考えるかです。

住民の皆さんの災害に対する意識の高揚・横の交流、そして人間関係が重要なテーマではないかと思えます。

そのことを踏まえて私は次のような案はどうかと考えます（左同参照）。

理想かも知れないがこの様なことが出来ないだろうかと思えます。皆さんのご意見があればお聞かせ下さい。

募集

防災部・防災ボランティアの今後の活動予定

- 1 「自助」サポート・チーム
ご高齢の方を対象として、消火器・火災報知器・家具転倒防止など自助に必須の防災準備を支援する。
- 2 災害時通信サポート・チーム
災害発生時の情報連絡方法（トランシーバー・伝言ダイヤル）等の準備および技術習得
取り纏め 野呂
- 3 防災・救命資機材サポート・チーム
災害時の救命救急や避難誘導に必要な機材の準備および技術習得
取り纏め 十川

- 要援護者調査の整理と対策： 2月～3月予定
- 家庭防災員研修会： 5月
- 防災ボランティア新規募集・再登録： 5月予定
- 防災だより（4号）発行： 5月15日
- 神奈川県総合防災センター見学会： 6月予定
- 防災資材棚卸し： 6月予定
- 自治会防災訓練： 9月予定
- 地域拠点防災訓練： 12月予定

